

クミアイ 殺菌剤

®は科研製薬(株)の登録商標

クミアイ[®]メリットDF

作物の病害防除にメリットあり!

トマト

ねぎ

なす

適用拡大
アザミウマ類

適用拡大
アザミウマ類

きゅうり

いちご

メロン

トマト
葉かび病

ねぎ
黒斑病

なす
灰色かび病

きゅうり
うどんこ病

メロン
うどんこ病

トマト
灰色かび病

いちご
うどんこ病

なす
すすかび病

きゅうり
褐斑病

自然に学び自然を守る



ダイアミットDF

有効成分：イミノクタジンアルベシル酸塩…12.5%
 (PRTR-1種30)
 ポリオキシン複合体……………15.0%
 (ポリオキシンBとして150,000AmBu/g)
 有効年限：4年
 性状：褐色細粒及び微粒

◆◆◆ 特長

- 1.独自の作用性を有するポリオキシンとイミノクタジンとの混合により、幅広い糸状菌病害(うどんこ病・灰色かび病等)に効果があります。
- 2.両有効成分の組合せには相乗効果が認められています。
- 3.各種薬剤耐性菌(EBI剤、ストロビルリン系等)に対しても高い効果が期待できます。
- 4.粉立ちのないDF製剤なので、粉塵による曝露が軽減されます。

◆◆◆ 適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数	ポリオキシンを含む農薬の総使用回数	使用方法		
きゅうり	うどんこ病 菌核病	1000~1500	100~300 ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	7回以内	2回以内	散布		
	灰色かび病 褐斑病 炭疽病	1000								
いちご	うどんこ病	2000		育苗期(定植前)	1回	10回以内(育苗期は5回以内、本圃では5回以内)	3回以内			
				収穫開始14日前まで	3回以内					
トマト	灰色かび病 すすかび病 うどんこ病 葉かび病 菌核病 アザミウマ類	1500		収穫前日まで	3回以内	3回以内	3回以内		3回以内	
	なす	灰色かび病 すすかび病 菌核病								1000~1500
		うどんこ病								1500
		アザミウマ類								1000
メロン	うどんこ病 つる枯病	1500			5回以内	5回以内	5回以内 (塗布は1回以内)			
ねぎ	さび病 黒斑病			収穫30日前まで	3回以内	3回以内	3回以内			

◆◆◆ 相乗効果

1 イミノクタジンが細胞膜脂質二重構造を破壊

二段攻撃

細胞壁 細胞膜

2 ポリオキシンの取込(細胞膜破壊で)さらに促進

相乗効果

ポリオキシンとイミノクタジンアルベシル酸塩の相乗効果

ポリオキシン/イミノクタジンアルベシル酸塩濃度 (ppm)	理論値 (%)	実測値 (%)
1.875+1.5625	~45	~65
3.75+3.125	~55	~90
7.5+6.25	~65	~95
15.0+12.5	~80	~95

2成分の混合により相乗効果が認められます。

きゅうりうどんこ病に対する効果

⚠ 効果・薬害等の注意

- 散布液調製の際はよく攪拌してください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 本剤はイミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用してください。
- メロンに使用する場合、交配2~3日前から交配2週間後までの効果の時期には、薬害を生じるおそれがあるので、この時期の散布はさけてください。また、若葉への散布や高温時の散布では、薬害を生じることがあるので注意してください。
- ばらに対して薬害を生じるので、かからないように注意して散布してください。
- 蚕に対して毒性があるので、桑にからないように注意して散布してください。
- 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

⚠ 安全使用上の注意

- 散布液調製時には保護眼鏡を着用し、薬剤が眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布時は保護クリームをつけ、農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。
- 作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをして衣服を換えてください。
- 作業時に着用していた衣服などは他と分けて洗濯してください。
- かぶれやすい人は作業に従事しないようにし、施用した作物などに触れないでください。
- 夏期高温時の使用をさけてください。
- 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収してください。
- 移送取扱いは、丁寧に行ってください。

魚毒性…使用残りの薬液が生じないように調製し、使いきってください。散布器具・容器の洗浄水は河川などに流さないでください。また、空容器、空袋などは水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管…密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷蔵・乾燥した所。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●防除日誌を記帳しましょう。

本資料は平成29年9月現在の知見に基づいて作成されております。